

# 消えた兵舎の謎

※注意※

本コーナーでは

- ・長過ぎる前置き
- ・度重なる脱線・逸脱
- ・（筆者の）独自解釈

以上の要素を含みます。ご注意ください。

というわけで新コーナースタートです！筆者（中の人）は以前白壁兵舎広報史料館で1年半ほどの期間、案内係を勤めていたことがありました。

案内係として毎日館内の展示物を見て  
いると、「あれ？」と思う部分が出てき  
ます。そこでこの企画ではその「謎」の  
いくつかを紹介し、掘り下げていくこと  
で何かしらの発見をできれば、と思い書  
き始めてみました。

記念すべき第1回はこの兵舎に纏わる部分を取り上げていきます。



本気で見学すると一回りするのに数時間かかる人もいる白壁兵舎広報史料館。入館無料ですので、是非一度はご覧になることをオススメします。

(記事中の写真は史料館内で撮影したものです。全般的に照明の関係上、反射光が映り込んでしまっていますがご了承願います。)

現在史料館となっている白壁兵舎は元々明治7年（1874年）に建造されたもので、新発田兵営（今でいう駐屯地）の中でも最古のものになります。その後、兵営の拡大に伴い図のように営庭を囲んで同様の兵舎が建てられました。兵舎のサイズは高さと奥行きが約11m、幅は約120m。2階建てで2個中隊（240名程度）が居住できました。

ちなみに帝国陸軍の歩兵連隊の定員は一般に平時は1000人程度（今よりもずっと大所帯ですね）で、これが有事の際には3000人程度まで増員されたそうです。ここに3000人も入ったのかというとやはり入り切らなかったようで、動員（戦争が始まって召集がかかること）が始まると出頭した人でごった返し、民泊（周辺の民家に宿泊）して待機したという話もあります。

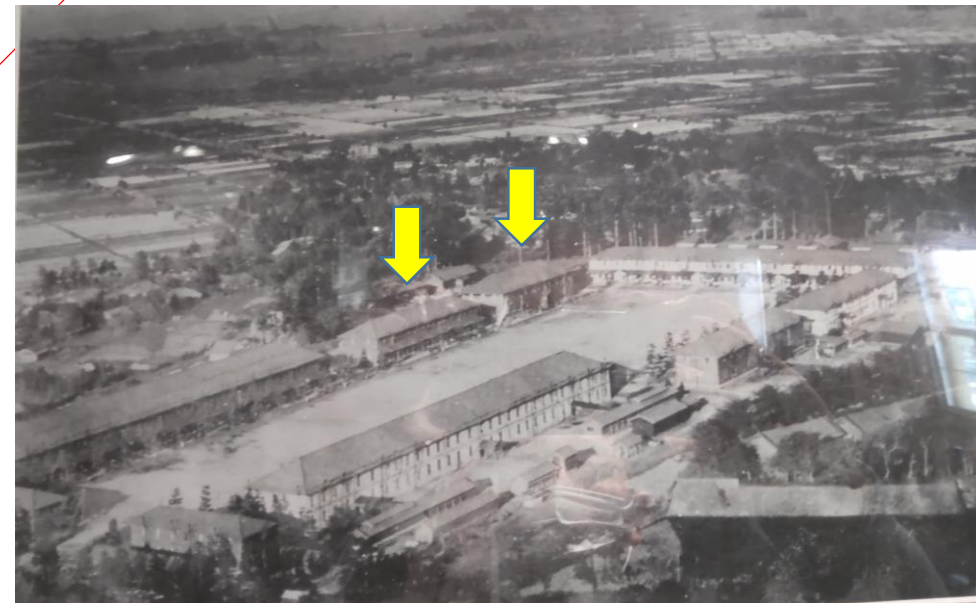
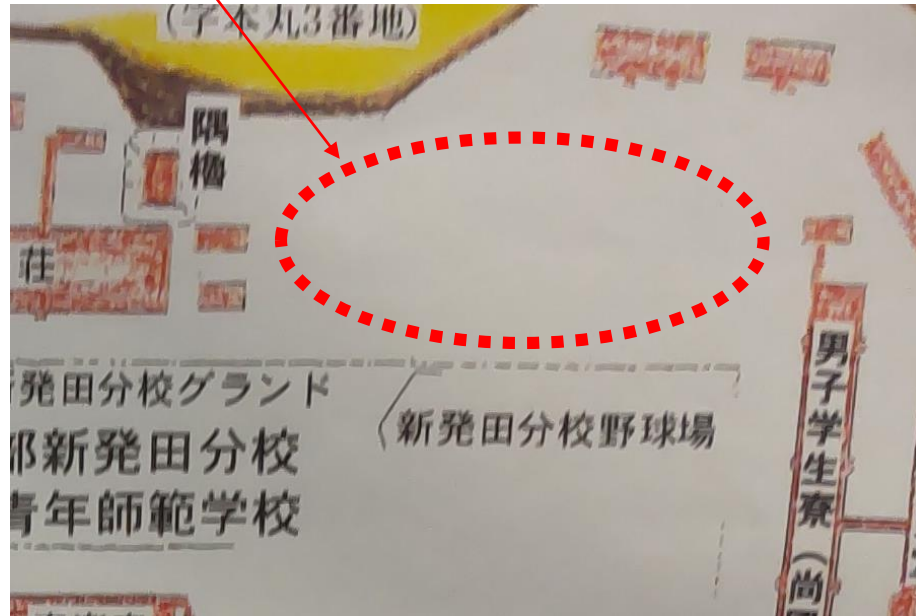
戦後、自衛隊の駐屯地となってからも兵舎は「隊舎」となり使われ続け、逐次建て直しを経て現在に至りますが建物の配置はほとんど兵営時代と変わらず、その面影を残しています。



明治時代の新発田兵営の図（↑）  
新発田駐屯地（史料館移築前）（↓）



いよいよ本題に入ります。まずはこちらの図（右）をご覧ください。昭和25年の新発田兵営跡の配置図です。大学等の分校舎として使用されていた頃のものです。問題はこの部分になります。



↑昭和11年に撮影された航空写真。確かに兵舎が2つありますね。

・・・なんか、**不自然に空いてない**でしょうか？  
ちなみに昭和11年頃の写真はこちら。（右図）  
明らかに**2棟の兵舎が建っています**。

一体、この2棟の兵舎はどこへ行ってしまったのか！？これが今回ご紹介する謎です！  
（ここまで前置き）

ここで戦後の新発田兵營の流れを説明しますと、まず進駐軍（米軍）がここに駐屯しています。戦後の治安維持が目的でしたが、新発田地域は特に混乱も無く、3か月程で撤収しています。その後は戦地から引き揚げされた方の寮や新潟大学の分校舎として使われています。

その期間中に2つの兵舎が忽然と消えているわけですね。何かと建物の所要が多かった当時にわざわざ取り壊すとも思えません。

どこかに手がかりは無いかと史料館内を探し回り、史料館の資料室（書庫）に辿り着きました。ここには戦前・戦中の様々な書籍等が大量に保管されています。とりあえず勤務員時代に一番よく読んでいた「新發田聯隊史」<sup>しばた れんたいし</sup>を手に取りました。よくよく読み返してみると、

**そこには衝撃の事実が！！**

（続く）



新發田聯隊史。新発田兵營の歴史と、各部隊の参加した作戦まで詳細に記されています。まさに案内係のバイブルと言える一冊。

(続き)

新発田兵營の歴史のコーナーを見てみると、そこに真実はあったのです。

右をご覧ください。当時の新発田町長(当時は新発田市は新発田町でした)による進駐軍関係の記録です。問題は次のページです。↓

進駐軍新発田町へ進駐について

20(金) 県庁高等官食堂に於いて、午前十一時より「進駐軍二対スル協議会」に出席。午後三時帰庁

24(月) 先着持校三名・兵十五名来着、警察署に寄り部隊へ行く

25(火) 午前四時五十二分着、聯合軍八百七十名ノ来着ヲ歓迎す

10(水) 午前、慰安隊の件につき、警察と打合す。午後二時、実行組合

長会を開く、金升へ。相馬主催の交歓会に八木へ赴く

13(土) 午前十時四十分着、進駐軍百四十名を駅頭に迎える

15(日) 警察署長と共に兵舎に赴きストックリンと会談す(前に警察で三糸市代表と打合す)

18(木) 午後一時半、進駐部隊にラック氏を訪問す(配電会社間藤所長と共に)

19(金) 警察署長と共に部隊に赴き米師團長の来訪に挨拶

20(土) 午後六時、米軍持校二十二名を貯蓄銀行樓上に招待、第二大隊

21(日) 午後六時、右同 第三大隊

23(火) 夕刻、隊長の招待、辰長にあり、藤崎署長と町長兩人出席

11(土) 午前七時四十分、発火、旧第四・五中隊兵舎焼失。午後六時半

12(金) 進駐軍の招宴に赴く(設備完了につき)

17(金) 午前八時半、米軍(第二大隊長ストックリン大尉)が出発し、新発田町を去る

五 キャンプ・シバタ 米陸軍キャンプ

昭和二十(一九四五)年夏大東亜戦争終結で新発田兵營は、東部第五十六部隊(長野師管区歩兵第三補充隊)より、進駐し来った、聯合國占領軍米陸軍第二七歩兵師団第一〇六歩兵聯隊第二大隊(ニューヨーク州)に引継がれた。『この部隊は州兵大隊で、ニューヨーク部隊の異名をもち、マキン島から始めてメジエロ・エニウエトク・サイパン・沖繩の各島を転戦した、歴戦の部隊であった』が意外にも良好な治安状態に三ヶ月で撤退し去った。

昭和二十(一九四六)年以來、教育・民生・産業各施設に

◎新発田町長進駐軍関係日誌 第十代町長原常一郎「日記聞き書」より

11月3日(土) 午前7時40分、**発火**。

**全焼**しているじゃないですか！なんということでしょう。

詳細はわかりませんが、おそらく火の不始末でしようか・・・11月ですし。そこはいいとして、火事の当日に宴会が催されていることの方が個人的にポイントが高い(?)ですね。さぞや微妙な空気だったのではないかと思いを馳せざるを得ません。

というわけで、今回の結論は「アメリカ人が（事故で）焼いた？」です。

（米軍が火事の直接的な原因かどうかはわかりませんので断定はできません）

兵舎が2棟も焼けるほどの火災でしたから、よほどのことがあったのではないかと思います。火の用心ですね。

因みにこの場所、後に自衛隊駐屯地となっ  
てからは隊員食堂が建てられ、現在は隊員浴  
場（お風呂）になっています。

白壁兵舎広報史料館は平成26年に移築さ  
れたものですが、新発田駐屯地内にまだ一つ  
現存する兵舎があり、現在も倉庫として使用  
されています。自衛隊は物持ちがとても良い  
ですね。

さて、今回は以上となります。真相のわか  
らないことを調べたり、あれこれ想像してみ  
ることも歴史学習の醍醐味だと思います！ま  
だ見たことがない方も、是非見学してみてく  
ださい。（了）



米陸軍歩兵第27師団 1,007名 進駐(昭和20年9月～12月)

↑再度登場。本当に焼いたとしたら「何してくれとんねん」  
となるのですが、真相もわかりませんし、「昨日の敵は  
今日の友」ということで。



昭和62年の駐屯地全景